

研究活動報告

第18回社会保障審議会人口部会

第18回社会保障審議会人口部会は、2016年12月2日（金）15:00~17:00、厚生労働省省議室において開催された。最初に、「平成27年国勢調査 人口等基本集計結果の公表等について」（総務省統計局）の報告がなされ、質疑応答が行われた。その後、国立社会保障・人口問題研究所から「日本の将来推計人口 一新推計の基本的考え方」について説明がされ、議論が行われた。「新推計の基本的考え方」については、新たに作成される将来人口推計について、その基本的枠組み、基準人口、出生、死亡、移動それぞれの仮定設定の順に、その基本的な考え方が説明された。委員からは、高齢における出生の増加に関する考え方、婚前妊娠出生の動向、死亡モデルの考え方などについて意見や質問が出され、議論が行われた。（石井 太 記）

独立行政法人国際協力機構（JICA）社会保険実施能力強化プロジェクト

平成29年1月30日~2月10日の約2週間にわたり、JICAの社会保険実施能力強化プロジェクトの一貫として、モンゴル国での年金数理研修に赴いた。モンゴル労働・社会保障省、医療・社会保険庁、国立労働・社会保障・人口問題研究所、国家統計局の職員を対象に、モンゴルの年金制度を持続可能なものとするために必要な長期的な推計を行うことができるよう、1) 人口動態の把握及びモンゴルの将来人口推計、2) モンゴルの公的年金制度の財政収支計算および将来試算についての講義及び実習を実施した。

プロジェクト目標「モンゴル医療・社会保険庁の社会保険適用、保険料徴収及び給付に関する能力が強化される」に資する活動として、

- 1) 生命表の管理・運用に関しては、基礎的知識は既にあったので、その応用および利用法を具体的な例を用いての指導を実施し、
- 2) 将来人口推計に関しても基礎的な知識はあったので、実際の推計に必要な仮定（出生、死亡、人口移動）の策定方法に時間を割き、コーホート解析の基礎や Lee Carter Model のモンゴルへの適用といった実践的な指導を実施し、
- 3) また、公的年金財政収支計算については、初めての経験であったようなので、まず、目的達成のためのフローチャートの作成法や目的達成のためのブロック分けの方法に対する指導（収支計算；収入部門と支出部門、収入部門；被保険者試算、被保険者給与試算、保険料試算、支出部門；年金受給者試算、年金額試算、経済的仮定；物価上昇率、賃金上昇率）を実施した。

実際には経済的仮定の策定には高度なマクロ経済学の知識や計量経済学の知識が必要であるが、これは、次回以降の研修に譲り、回帰分析の方法のみを指導することによって必要な数値を自力で算出することは可能になった。また、これらの部門を統合して最終的な収支計算・試算を実施する方法も指導した。（山本克也 記）